

みんなのスポーツ



創部12年目の川口は、船橋中央、立川、印西、山梨都留、そして第一シードの横浜泉を下して創部以来初の日本選手権大会出場を決めた。さらに、江ノ川中央をも破り、怒涛の7連勝で決勝に進出した。佐倉との決勝では「今まで続かなかった」(相馬健二監督)守備のミスが続ぎ、いきなり4点を献上。その後もなかなかの全国出場を決め、準優勝の川口シニア

川口初の全国&準V

MEIKO CUP 関東夏季大会

佐倉が2年ぶり関東制覇。2016 MEIKO CUP リトルシニア関東夏季大会(東京中日スポーツ)後援の決勝戦が3日、栃木県白鷲野球場で行われ、佐倉が川口を破り、2年ぶり3度目の夏の関東大会優勝を決めた。川口は創部12年にして初の日本選手権出場を決め、その勢いで準優勝にまで上り詰めた。3位決定戦は延長タイブレークの末、江戸川中央に軍配。4位には横浜緑。ほか上位計8チームが今月31日に神宮球場で開催する日本選手権大会に出場する。

佐倉 関東V

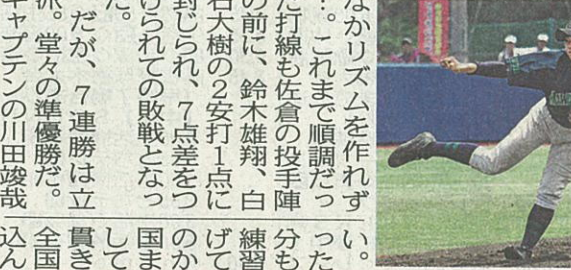
毎年安定した力を誇る佐倉が、今夏も力を見せつけて関東の頂点に立った。初戦の2回戦で目黒を4-1で下すと、国立中央との3回戦、青葉緑東との4回戦をコールド勝ち。5回戦で東関東のライバル、取手に5-0で完勝し日本選手権出場を決めた。準決勝では海老名相手に2-1と初めて苦戦したが、準決勝では横浜緑に4-1で快勝。

熊澤 MVP & ベストナイン



大会打率6割3分6厘で打撃賞を受賞した佐倉・林は決勝でも3安打

3年連続進出となった決勝では、1回に死球とバント安打、敵失、押し出し死球で先制すると、なおも続く満塁のチャンスで5番・度会隆輝がライトへ2点適時打。併殺打の間にもう1点追加しいきなり4点。2回にはヒットの十津川瑛人を三



チームを準優勝にまで導いた川口シニアのエース大戸

なかりズムを作れず、これまで順調だった打線も佐倉の投手陣の前に、鈴木雄翔、白石大樹の2安打1点に封じられ、7点差をつけられての敗戦となった。だが、7連勝は立派。堂々の準優勝だ。キャプテンの川田竣哉



優勝旗を受け取る佐倉・根本翔吾選手

林は打撃賞・636

最優秀選手賞とベストナインの投手部門の二冠を手にしたのが佐倉のエース熊澤恭平。見た目はインドア派で「よくスポーツでできなさそうって言われるんです」と笑う熊澤だが、投げるとスゴイ。今大会も防御率0.68で堂々のダブル受賞だ。熊澤は「これまで練習を積み重ねてきた成果が出てうれしい。今大会は四球が少なかったし、インコースのストレートが良かった。監督コーチのおかげだし、支えてくれた親のおかげです」と笑顔をみせた。

キャプテンの樋口智也

は「これまで練習してきた成果が優勝という結果につながったと思います。うれしいですけど、日本選手権とジャイアンツカップ優勝を目指しているの、ここはまだ通過点。喜ぶところは喜んで、あとは目標に向かってもっと力をつけていきたいです」とコメント。すでに視線は次の大会。これこそが、佐倉シニアの強さだ。今夏も、日本一に一番近いチームといえるだろう。



関東の頂点に立った佐倉シニア

▽最優秀選手賞 熊澤恭平(佐倉)
▽敢闘賞 大戸隆之介(川口)
▽打撃賞 林楓一郎(佐倉) 打率6割3分6厘
▽優秀選手賞 根本翔吾(佐倉) 鈴木雄翔(川口) 小室智希(江戸川中央)
▽ベストナイン
▽投手 熊澤恭平(佐倉) 防御率0.68▽捕手 布上純(横浜緑)▽一塁手 伊達幸紀(佐倉)▽二塁手 黒木達斗(川口)▽三塁手 天野海斗(江戸川中央)▽遊撃手 角田勇斗(佐倉)▽外野手 林楓一郎(佐倉) 川津慧吾(川口) 平川颯(江戸川中央) 岡田啓(川口)
▽佐倉・根本翔吾(優秀選手賞)「昨年は準優勝だったので、絶対優勝したいと思っていました。得意の打撃が評価されて賞を取れたのはうれしい。全国でもこの調子で一戦一戦勝っていきたい」
▽川口・大戸隆之介(敢闘賞)「2回完投できたのが良かった。でも今日(決勝)は力が入ってしまいました。全国では優勝して最優秀選手賞を取りたいです」
▽同・鈴木雄翔(優秀選手賞)「今大会は1番の自分が出るところから得点して、という感じで勝ってこれたのは良かったです。全国では打って流を作って勝つように頑張ります」
▽佐倉・伊達幸紀(ベストナイン)「準決勝のホームランが効いて賞が取れたのかも。全国でもっと強いチームと戦って思うので、勢いを止めずに頑張りたいです」
▽同・角田勇斗(同)「3

みんなのツラHP

みなさんのHPは



お問い合わせ 03-661-0131